



巻頭特集

砂川市立病院附属看護専門学校

# 地域に寄り添う 看護を目指して

中空知の基幹病院である砂川市立病院と連携しながら、質の高い看護教育を行うとともに、地域に必要とされる人材の育成をしている砂川市立病院附属看護専門学校。学生たちが日々切磋琢磨しながら、看護師への道のりを歩んでいます。

高度な医療の現場で学べる  
砂川市立病院での臨地実習

地域医療に貢献できる看護師を育成しようと、平成3年4月に開校された砂川市立病院附属看護専門学校。目の前に建つ砂川市立病院を実習先としており、病院内では初々しいながらも、懸命に医療現場で学ぶ実習生の姿を目にします。

砂川市立病院は最先端の医療設備が整った中で、高度な医療を提供している総合病院。砂川市と連携した地域包括ケアに力を入れていくほか、地域センター病院としての役割を持つことから、中空知地域の人々が安心して暮らせるために欠かせない存在となっています。

看護学校を卒業した後は、大学への編入や助産師学校などに進学する学生もいますが、多い年で8割の学生がそのまま市立病院へ就職。入学者は札幌、旭川をはじめとした地方からの学生もいますが、地元の学校に通い、地元で就職できるということに魅力を感じ、近年では周辺地域からの入学が増えているそうです。

同じ志を持った仲間と  
助け合いながらの学校生活

「誰にでも大事な人がいる。その大事な人を守るためにも、今あなたを助けたい」という言葉に感動し、看護師を目指した看護学科2年生の寺田岳人さん。「医療ドラマなどで、患者を助けたいという強い志を持った医師の言葉にすごく打たれました。それは看護師としてもできることだと思ってこの道に進もうと思いました」と、話します。

岩見沢出身でひとり暮らしをしながら通学する寺田さんは、学生で結成している自治会の会

看護学科2年・自治会長

寺田 岳人 さん

「緩和ケアに興味があるので、いつか認定看護師の資格を取って患者さんと触れあっていける道に進みたいと思っています」







看護学科1年

佐藤彩可さん

「道内でも有名な砂川市立病院で実習できるのがいいと思います。決めました。卒業後は砂川市立病院に就職したいと思っています」

を感じるそうです。

現在は勉強のかたわら、1年生が迎える「看護決意式」に向けて自治会としてサポートする準備を進めています。決意式とは、これまで学校内で基礎学習をしてきた1年生が、実際の医療現場で臨地実習を始めるにあたり、改めて看護師を志す決意を固める場です。

決意式を控えた看護学科1年生の佐藤彩可さんは、緊張を隠せない様子。「決意式の内容は1年生が考えるのですが、『決意の言葉』だけは毎年必ず唱えます。今は、どんな看護師になりたいのかなど、それぞれ意見を出し合っていて決意の言葉を考えているところ。緊張感の中でしっかりと伝えるのか不安です」

これまででは基礎看護技術を学生同士で練習してきました。「患者さんの役をやって初めてわかることがたくさんありました。ただし健康な状態での患者役でしたので、きつと実際はもっと違うんだろうなと思います」と佐藤さん。

授業では覚えなくてはならない内容も多く、毎日予習復習をこなしながら、臨地実習に向け

て期待と不安を膨らませているようです。

### 病院との連携で生み出す 学生のための教育環境

「臨地実習で慣れている病院で働けるのはいいですね。指導してくれた看護師さんと一緒にまた働けるので」と話すのは今年の3月に卒業し、砂川市立病院で勤務している山田有佳里さん。実際の勤務になると責任感が増して仕事量も多くなることから、対人面での負担が少ないことは新人看護師にとっては大きなメリットになっているようです。

教務主任の戸田悦子先生は



砂川市立病院看護師 (今年3月卒業)

山田有佳里さん

「実習先が近いこともあり、この看護学校に決めましたが、実際に先生と病院スタッフとの連携がとてもいいので、非常に勉強がしやすい環境でした」

「病院の看護師さんたちに、いずれは自分たちのかたわらに立つ看護師を育てているという気概を感じます。自分たちにとって仲間になる学生を育てていただいていると思うので、ありがたいことです」と話します。

岩木宏之学校長は市立病院の副院長も務めていることから、臨地実習以外にも教育環境に対して病院との連携を深めています。

スクールカウンセラーの導入もその一つ。学習の中では、病を抱えた人との関わりの中で、気持ちを大きく揺さぶられてしまうことがあります。そんなとき、学生は教員を通さずにカウンセラーに直接相談することが可能です。カウンセラーを務めるのは、市立病院の臨床心理士。相談内容は学校側に伝わることはないで、学生は安心して利用できます。

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

戸田先生。

病理医でもある岩木校長は、総合医療論の講義のほか、ワークショップで病理医として意見を述べるなどして学生と向き合います。学生にとって新鮮で心に残る授業になっているようです。「学校長が直接授業してくれたのは印象的でした。病理の先生でもあるので現場のこともわかっていて。この看護学校は先生との距離がとても近いんです。わからないことがあった

## 看護決意式のようす

10月28日に、第26期生(35名)の看護決意式が行われました。

ここから実際に患者、医師、看護師、病院スタッフがそろって医療現場での学びが始まります。

保護者を始めとし、教員や先輩たちに見守られながら決意式を迎えた1年生。緊張の面持ちながらも背筋を張り、改めて看護師に向けての決意を再確認していました。

みんなで考えた決意の言葉には、看護師を志した理由を振り返り、共に学び合う仲間との団結を確認し、これから始まる臨地実習に必要な知識と技術をしっかりと身につけていきたいとの強い思いが込められていました。会場が暗くなり、一人ひとりナイチンゲールの心からろうそくの灯りを授かります。暗闇は病める人の心の不安を、ろうそくの灯りは病める人の不安を和らげる灯りを表していると言われています。

一人ひとりの心に灯ったろうそくの炎を胸に、新たな学びの場へ歩き出していきます。



ナイチンゲールは戦争中、暗い病室の中、ろうそくを持って負傷した兵士を見守ったということに由来するキャンドルサービス



手話を交えながら「決意」を合唱。しっかりとそろったハーモニーに仲間同士の団結を感じました(写真左)1年生全員が声をそろえて唱える決意の言葉。誰一人ずれることなく何も見ずに発する言葉に、決意式を成功させて臨地実習に挑みたいとの思いが表れていました(写真右)



7PMで動画をチェック!

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

「成績をつける教員ではなくカウンセラーが対応するのは、看護学校では珍しい制度です」

### 砂川市立病院附属看護専門学校

砂川市西4条北1丁目1番5号  
TEL 0125-52-6171